

内閣府平成 27 年度委託調査事業

就職・採用活動開始時期の後ろ倒しに係る
学生の就職活動等調査

調査結果報告書（概要版）

平成 28 年 1 月

調査の概要

(1) 調査の目的

学生の学修時間の確保、留学等の促進という観点から、平成 27 年度卒業・修了予定者からの就職・採用活動時期について、広報活動は卒業・修了年度に入る直前の 3 月 1 日以降に、採用選考活動は卒業・修了年度の 8 月 1 日以降に開始するよう、政府から関係団体に要請を行った。

本調査は、①就職・採用活動開始時期の後ろ倒しに伴う学生の意識・行動、②就職・採用活動時期後ろ倒し初年度である平成 27 年度卒業・修了予定者の就職・採用選考活動における意識・行動等を把握することを目的として実施した。

(2) 調査の実施方法

対象：大学 1～4 年生、大学院 1・2 年生

方法：インターネット調査

期間：平成 27 年 10 月 9 日～11 月 6 日（10 月 1 日時点の状況を回答）

(3) 有効回答件数

対象	大学				大学院修士課程 (博士前期課程)		合計
	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	1 年生	2 年生	
有効回答 件数	510	527	673	1,983	534	627	4,854

この「概要版」に掲載している内容は、大学 4 年生及び大学院 2 年生の回答によるものである。

時期変更によって生じた期間の活用状況

(大学3年生・大学院1年生の12月から3月まで)

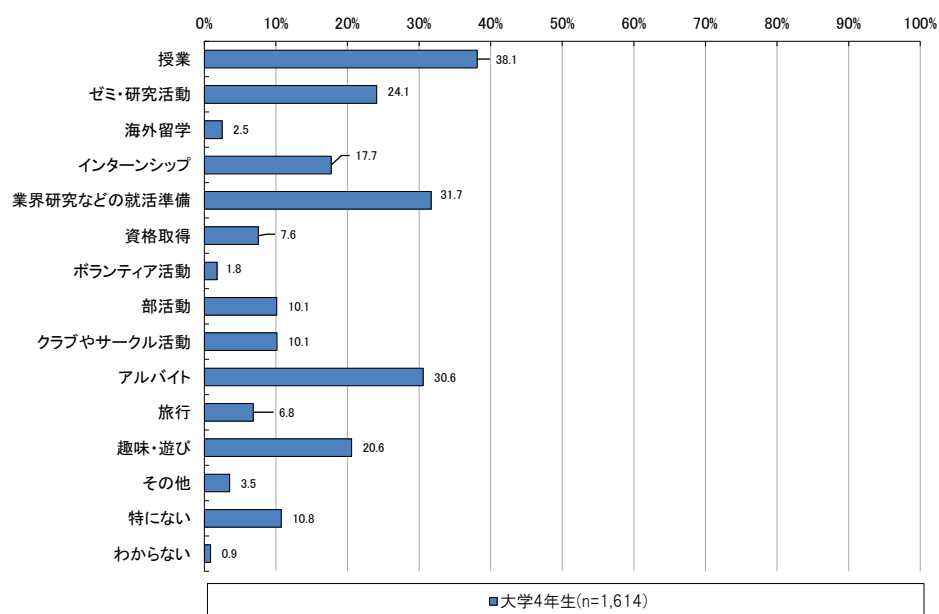
<大学4年生の回答>

① 授業	38.1%
② 就活準備	31.7%
③ アルバイト	30.6%
④ ゼミ・研究活動	24.1%

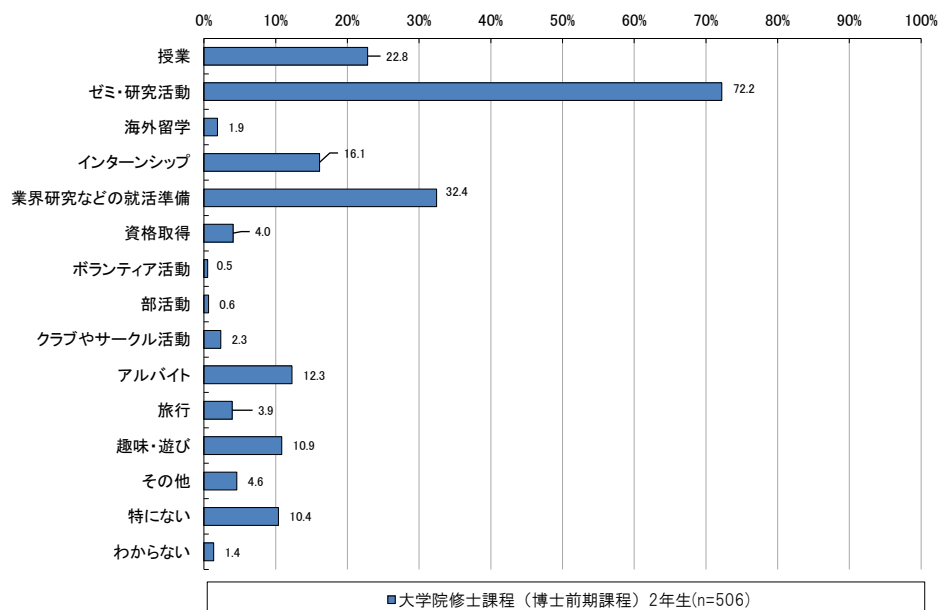
<大学院2年生の回答>

① ゼミ・研究活動	72.2%
② 就活準備	32.4%
③ 授業	22.8%
④ インターンシップ	16.1%

「時期変更によって生じた期間」の活用状況 (大学4年生) (最大3つまで選択)



「時期変更によって生じた期間」の活用状況 (大学院2年生) (最大3つまで選択)



「就職活動後ろ倒し」のよい影響に関する認識

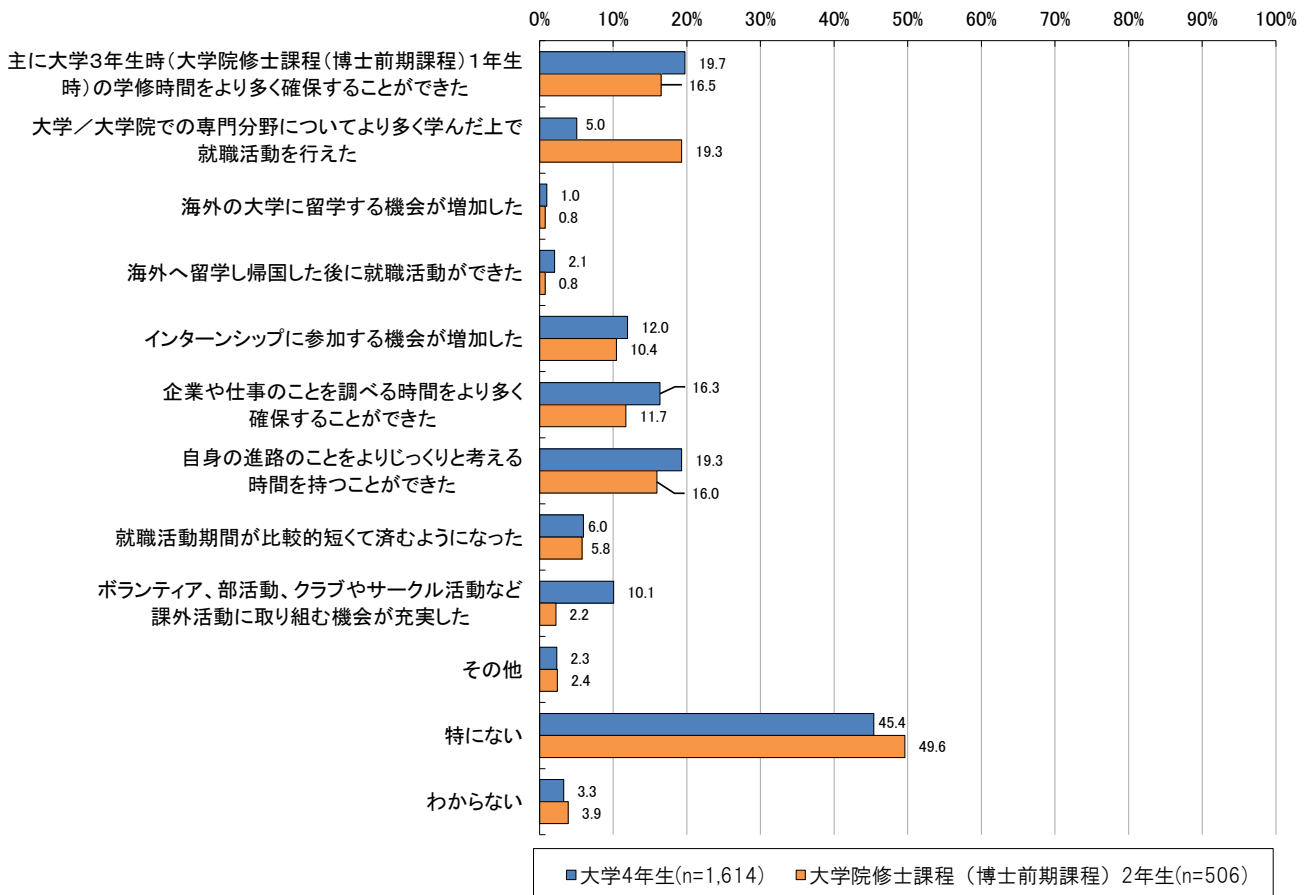
＜大学4年生の回答＞

- ① 主に大学3年生時の学修時間をより多く確保することができた 19.7%
 - ② 自分の進路のことをよりじっくりと考える時間を持つことができた 19.3%
 - ③ 企業や仕事のことを調べる時間をより多く確保することができた 16.3%
- ※ 「特にない」が45.4%。

＜大学院2年生の回答＞

- ① 大学院での専門分野についてより多く学んだ上で就職活動を行えた 19.3%
 - ② 主に大学院1年生時の学修時間をより多く確保することができた 16.5%
 - ③ 自分の進路のことをよりじっくりと考える時間を持つことができた 16.0%
- ※ 「特にない」が49.6%。

「就職活動時期後ろ倒し」についてよい影響があったと思うこと（最大3つまで選択）



「就職活動後ろ倒し」に関する不安や課題等に関する認識

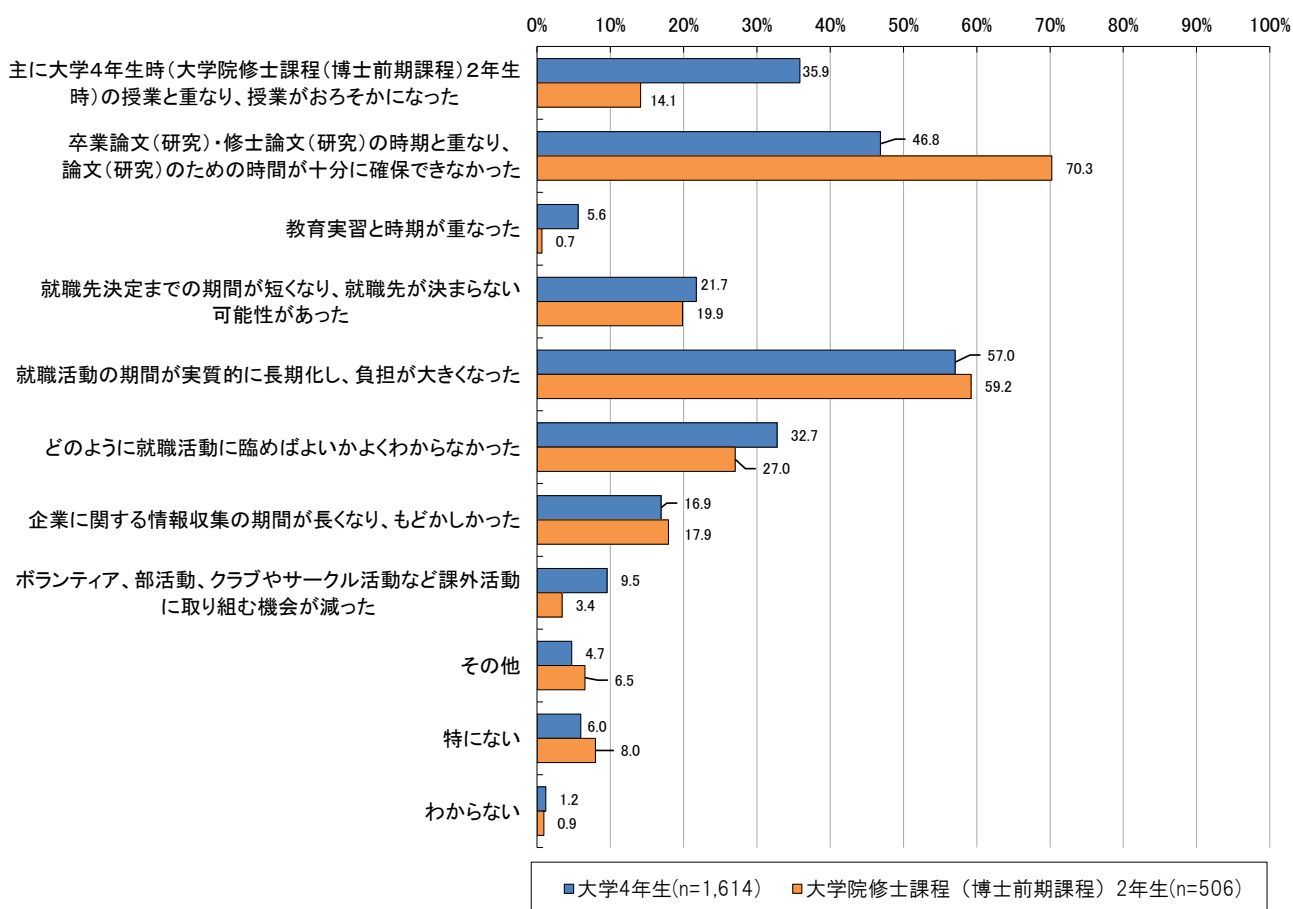
＜大学4年生の回答＞

- ① 就職活動の期間が実質的に長期化し、負担が大きくなった 57.0%
- ② 卒業論文（研究）の時期と重なり、論文（研究）のための時間が十分に確保できなかった 46.8%
- ③ 主に大学4年生時の授業と重なり、授業がおろそかになった 35.9%
- ④ どのように就職活動に臨めばよいかよくわからなかった 32.7%

＜大学院2年生の回答＞

- ① 修士論文（研究）の時期と重なり、論文（研究）のための時間が十分に確保できなかった 70.3%
- ② 就職活動の期間が実質的に長期化し、負担が大きくなった 59.2%
- ③ どのように就職活動に臨めばよいかよくわからなかった 27.0%
- ④ 就職先決定までの期間が短くなり、就職先が決まらない可能性があった 19.9%

「就職活動時期後ろ倒し」について就職活動中に課題になったこと（最大3つまで選択）



採用面接の実施時期

＜最初に採用面接を受けた時期＞

- ・大学4年生・大学院2年生ともに「平成27年4月」が約3割となっており、「平成27年3月」「平成27年5月」の回答と合わせると、6割以上がこの時期に最初の採用面接を受けている。

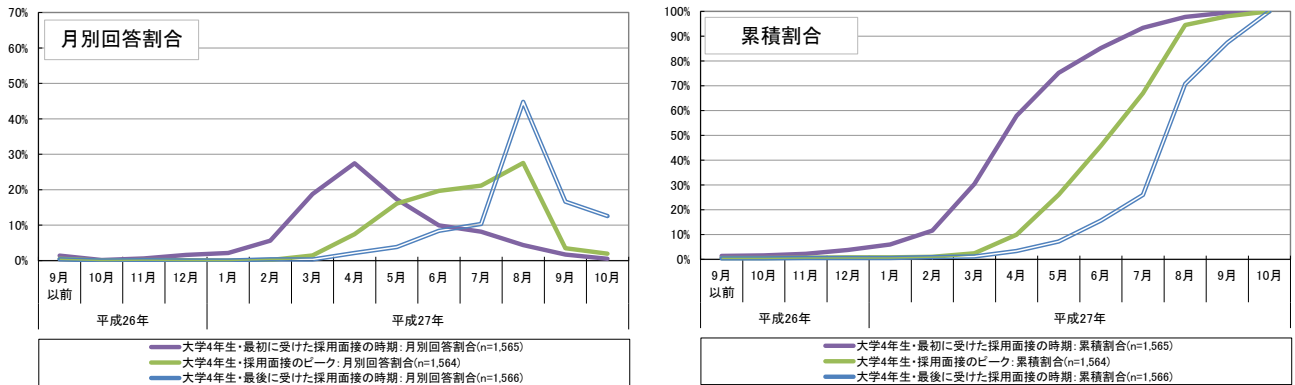
＜採用面接のピーク＞

- ・大学4年生：「平成27年8月」が27.6%で最も割合が高く、次いで「平成27年6月」「平成27年7月」がそれぞれ2割程度。
- ・大学院2年生：「平成27年6月」「平成27年8月」が約25%で同程度となっており、次いで「平成27年5月」の回答が約2割となっている。

＜最後に受けた採用面接の時期＞

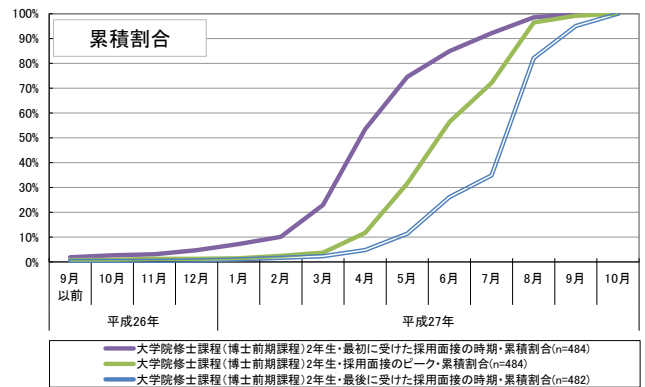
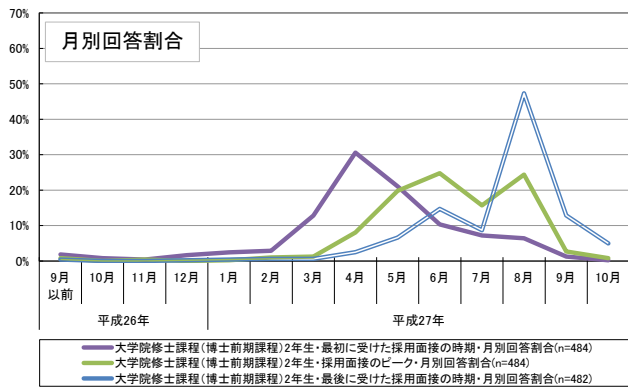
- ・大学4年生：「平成27年8月」が44.8%。次いで、「平成27年9月」が16.7%、「平成27年10月」が12.6%となっている。
- ・大学院2年生：「平成27年8月」が47.3%。次いで、「平成27年6月」が14.7%、「平成27年9月」が12.9%となっている。

採用面接の実施時期（大学4年生）



最初の面接	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
月別回答割合	1.4%	0.2%	0.6%	1.6%	2.2%	5.6%	18.8%	27.5%	17.3%	10.0%	8.2%	4.4%	1.7%	0.5%
累積割合	1.4%	1.6%	2.2%	3.8%	6.0%	11.6%	30.4%	57.9%	75.2%	85.2%	93.4%	97.8%	99.5%	100.0%
面接のピーク	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
月別回答割合	0.5%	0.0%	0.2%	0.1%	0.0%	0.2%	1.5%	7.5%	16.1%	19.7%	21.2%	27.6%	3.5%	2.0%
累積割合	0.5%	0.5%	0.7%	0.8%	0.8%	1.0%	2.5%	10.0%	26.1%	45.8%	66.9%	94.5%	98.0%	100.0%
最後の面接	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
月別回答割合	0.4%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.4%	0.3%	2.2%	3.8%	8.4%	10.3%	44.8%	16.7%	12.6%
累積割合	0.4%	0.4%	0.5%	0.5%	0.5%	0.9%	1.2%	3.4%	7.2%	15.6%	26.0%	70.8%	87.4%	100.0%

採用面接の実施時期（大学院2年生）



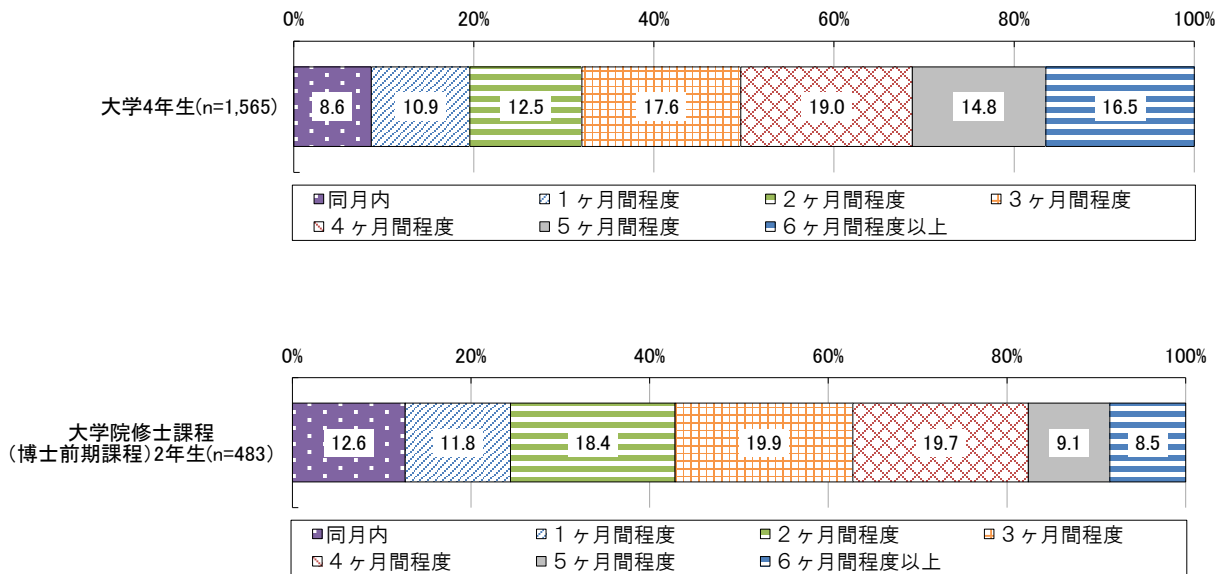
最初の面接	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
月別回答割合	1.9%	0.8%	0.4%	1.7%	2.5%	2.9%	12.8%	30.6%	21.1%	10.3%	7.2%	6.4%	1.2%	0.2%
累積割合	1.9%	2.7%	3.1%	4.8%	7.2%	10.1%	22.9%	53.5%	74.6%	84.9%	92.1%	98.6%	99.8%	100.0%
面接のピーク	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
月別回答割合	0.8%	0.0%	0.4%	0.0%	0.2%	1.0%	1.2%	8.1%	19.8%	24.8%	15.7%	24.4%	2.7%	0.8%
累積割合	0.8%	0.8%	1.2%	1.2%	1.4%	2.5%	3.7%	11.8%	31.6%	56.4%	72.1%	96.5%	99.2%	100.0%
最後の面接	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
月別回答割合	0.4%	0.0%	0.0%	0.2%	0.4%	0.6%	0.6%	2.5%	6.6%	14.7%	8.7%	47.3%	12.9%	5.0%
累積割合	0.4%	0.4%	0.4%	0.6%	1.0%	1.7%	2.3%	4.8%	11.4%	26.1%	34.9%	82.2%	95.0%	100.0%

最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間

<採用面接の期間>

大学4年生・大学院2年生ともに、「3ヶ月間程度」もしくは「4ヶ月間程度」の割合が高い。

最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間



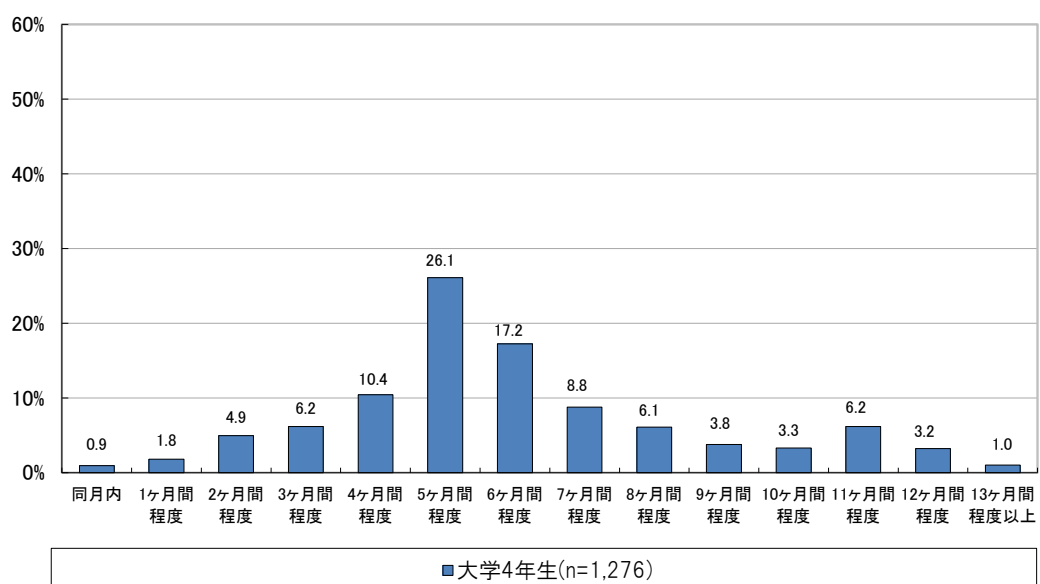
※「最初に採用面接を受けた月」と「最後に採用面接を受けた月」から計算しており、途中の期間に就職活動を行っていない可能性があるなど、採用面接を受けていた実際の期間の長さを必ずしも意味するものではない点に留意が必要である。

就職活動の始まりから終わりまでの期間

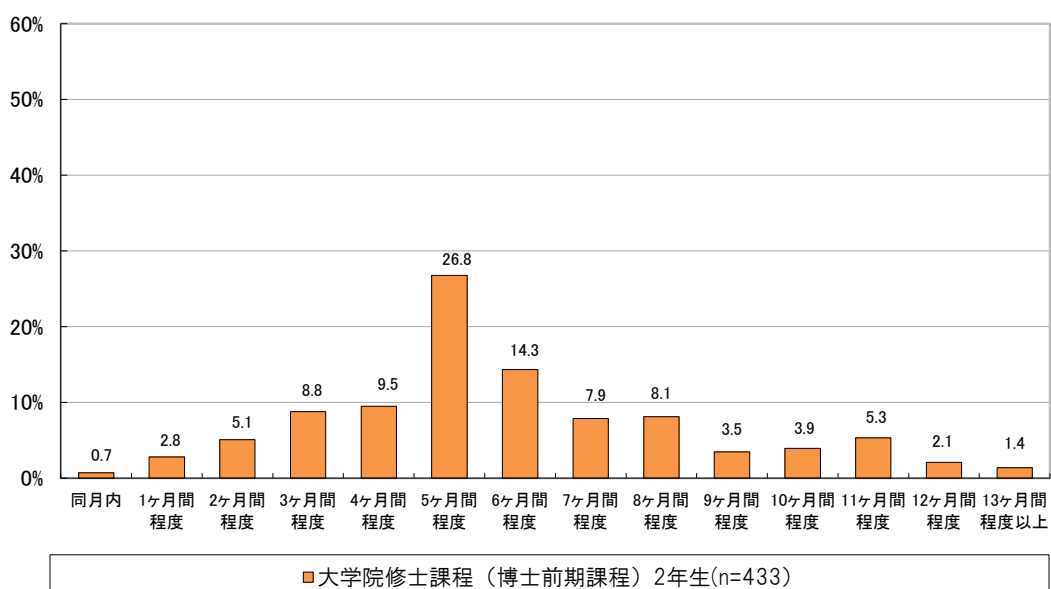
＜就職活動の期間＞

「5ヶ月間程度」が大学4年生で26.1%、大学院2年生では26.8%と、ともに割合が最も高く、次いで「6ヶ月間程度」が高くなっている。

就職活動の始まりから終わりまでの期間（大学4年生）



就職活動の始まりから終わりまでの期間（大学院2年生）

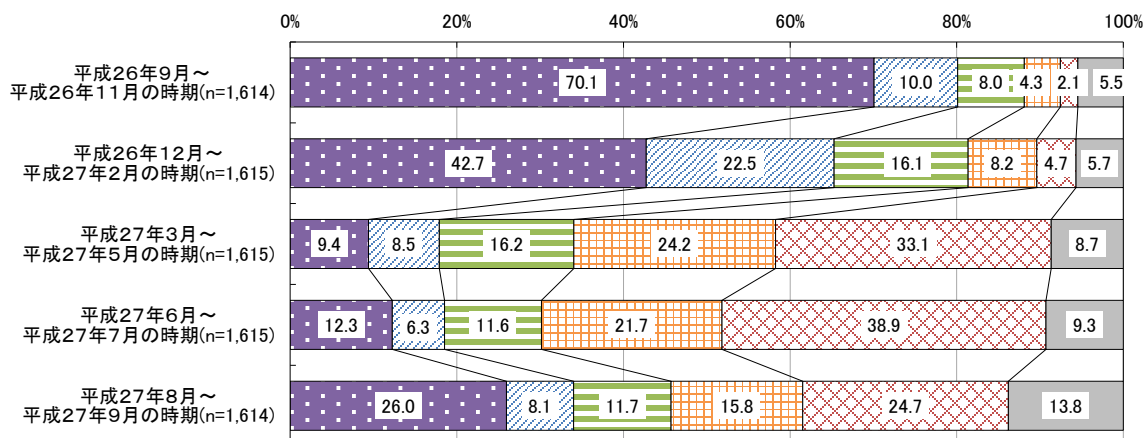


※ 「就職活動が始まったと考える時期」と「就職活動が終わったと考える時期」から計算しており、途中の期間に就職活動を行っていない可能性があるなど、就職活動を行っていた実際の期間の長さを必ずしも意味するものではない点に留意が必要である。

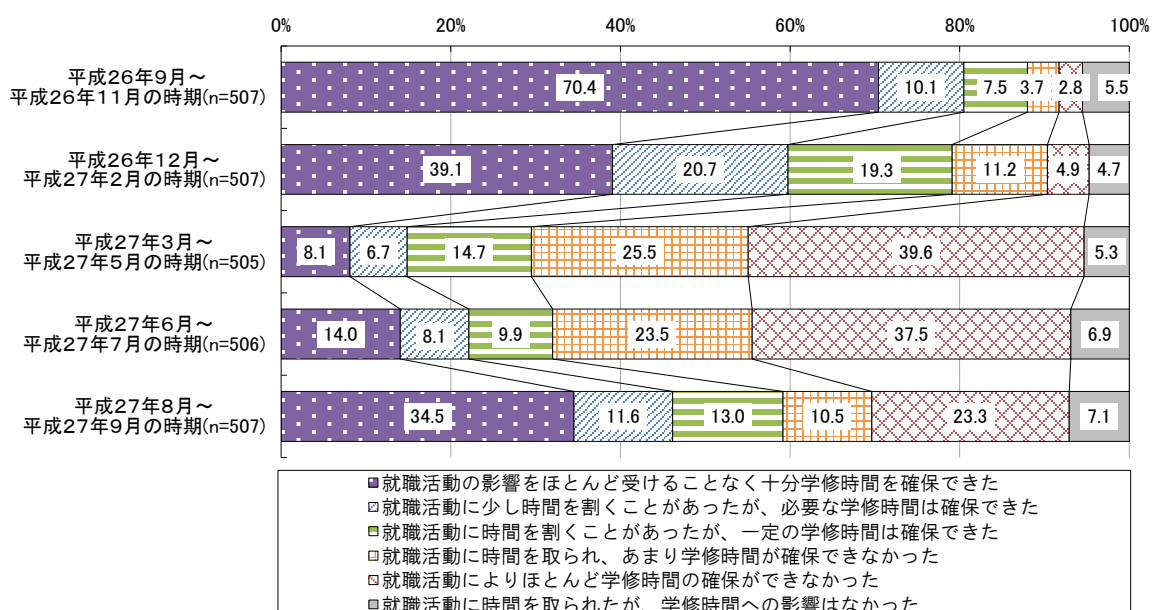
就職活動と学修時間確保の状況

- ・大学4年生・大学院2年生ともに、「平成26年9月～11月の時期」については、「就職活動の影響をほとんど受けることなく十分学修時間を確保できた」がそれぞれ70.1%、70.4%と、7割以上となるなど、広報活動開始時期より前の2月までは多くの学生が学修時間を確保できたと考えられる。
- ・広報活動開始時期後の「平成27年3月～5月の時期」「平成27年6月～7月の時期」に関しては、「就職活動によりほとんど学修時間の確保ができなかった」の回答割合が高いなど、学修に対する影響が大きかったことがうかがえる。
- ・「平成27年8月～9月の時期」に関しては、「就職活動の影響をほとんど受けることなく十分学修時間を確保できた」の回答割合が大学4年生では26.0%、大学院2年生では34.5%となっており、学修時間の確保に改善傾向がみられる。

就職活動と学修時間確保の状況（大学4年生）



就職活動と学修時間確保の状況（大学院2年生）



海外留学に対する影響

大学4年生・大学院2年生ともに「もともと留学を終えてから就職活動を始めようとしていたので、『就職活動時期後ろ倒し』による影響はなかった」の回答が最も多くなっているが、大学4年生では「『就職活動時期後ろ倒し』により、就職活動が遅れることを気にすることなく留学することができた」との回答が約3割見られた。

大学3年時・大学院1年時からの海外留学経験者による
「就職活動時期後ろ倒し」の影響についての認識

